

いよいよ
オープン!

厳原港

国内ターミナルビル

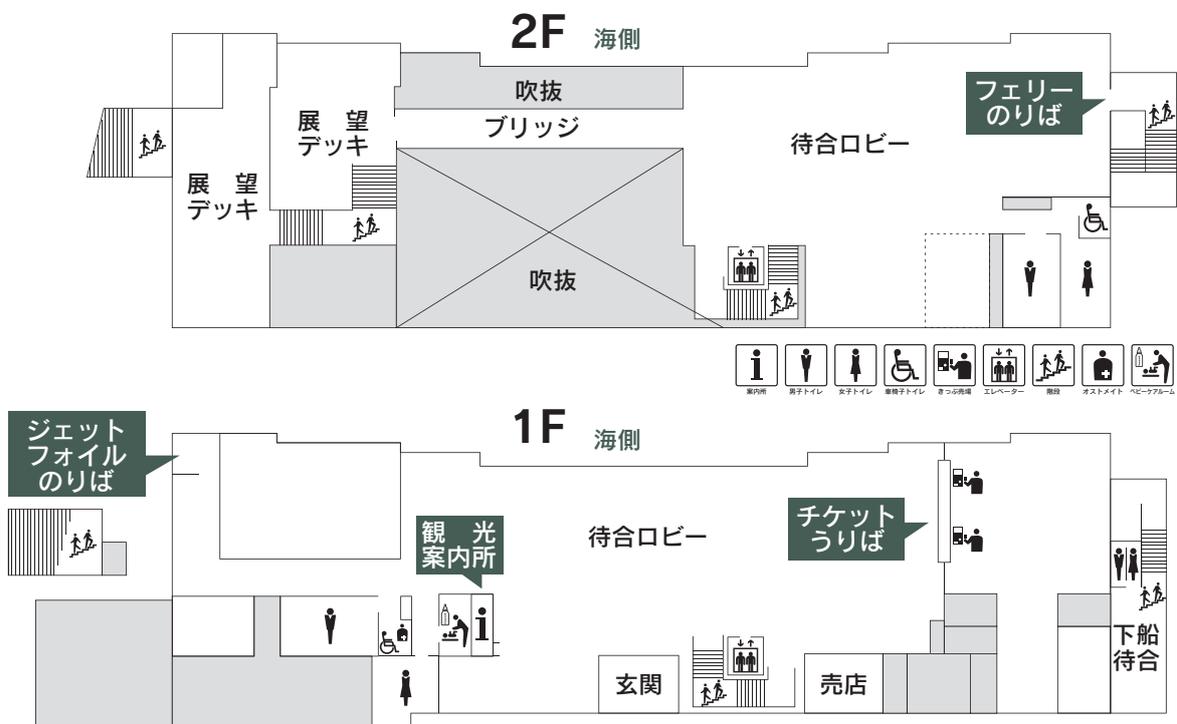
～厳原港の今昔～



厳原港に建設が進められてきた、新たな国内ターミナルがいよいよ12月10日にオープンします。対馬の海の玄関口の一つとなるターミナルの内部や、城下町の港として発展してきた厳原港の歴史をご紹介します。

新しい国内ターミナルの内部をご紹介します！

新国内ターミナルは、平成24年度から建設に向けた設計・調査が始まりました。設計にあたっては、ターミナルの機能についてはもちろん、厳原港の景観を損なわないための検討が何度も行われ現在の形になりました。



- ロビーは椅子が増え、床下からの空調で快適に待つことができます。
- 多機能トイレやエレベーターを設置し、バリアフリーにも対応。乳幼児のオムツ替えなどができるベビーケアルームもあります。
- 正面玄関前には、屋根付き乗降スペースができて雨降りでも安心です。
- 駐車スペースも多く確保され、混雑緩和のため幅の広い道路になります。

二も便利!!



これまでの厳原港を振り返る

城下町の港として発展してきた厳原港

1486年、対馬島主だった宗貞国（広報つしま令和元年7月号14ページで紹介）が、現在の峰町佐賀から厳原町中村（対馬南警察署付近）へ移り屋形を築いたことで、それまであまり人の居なかったこの地区は城下町となり「府中」と呼ばれるようになりました。その後は、日本本土と朝鮮半島との交流の拠点として「朝鮮通信使」を迎えるなど、厳原の町は港と共に発展しました。

1657年から対馬を治め、様々な改革や貿易の拡大によって、藩の全盛期を築いた宗義真は、府中港（現在の厳原港）の整備や棧原城建設に合わせ町割りを行いました。その姿は現在の厳原市街地の原型となり、現代にもつながっています。

その後、義真の時代に築いた^{やらい}矢来（防波堤）ができて290年を記念し、昭和39年に始まったお祭りが「厳原港祭り」です。

厳原商工会と観光協会が主催し、昭和39年8月14日に行われた祭りでは、義真公を偲ぶための法要で祭りがスタートし、市中と海上でのパレード、八幡宮神社など4か所に設置された舞台での演芸、フィナーレには花火大会が行われ、数千人の観客を集めました。その後、昭和53年からは朝鮮通信使行列が始まるなど対馬最大の祭りとして今につながっています。



厳原本川にある朝鮮通信使が入港する絵



厳原大橋が架かるかつての矢来（防波堤）



草創期の市中パレードの様子（対馬市商工会所蔵）

かつての厳原港の姿と現在

明治後半からは厳原港を撮影した写真が残されています。現在の風景と比べると、港の変化がよくわかります。



明治時代（教育委員会所蔵）



昭和30年代頃（教育委員会所蔵）



昭和30年代頃（教育委員会所蔵）



久田道側から撮影した写真。手前の矢来（防波堤）内側には多くの船が停泊



島外に就職する若者を見送る船。カラーテープは今も昔も変わらない



立亀岩の上から見る厳原港。港の形が変わっているのが良くわかる

厳原から博多へ向かった船の悲劇

戦時中、対馬を経由し、博多と釜山を行き来していた連絡船「珠丸」は、戦火をかいくぐって運航していました。終戦直後の1945年10月14日、対馬と博多を結ぶ連絡船として再び運航を開始したその日、壱岐に近い海上で旧日本海軍が設置していた機雷に接触して爆発、名簿上乘船していた730人のうち、545人が行方不明になったとされる沈没事故が発生しました。船には島民のほか、朝鮮半島からの引揚者などが乗船しており、故郷に早く帰りたい一心で、切符を持たない人も多く、行方不明者はさらに多いと言われています。現在、厳原港には慰霊塔が置かれ、犠牲になった人たちのご冥福を祈るとともに、往來する船舶の安全を見守っています。



大きな転換期を迎えた厳原港

昭和26年から、日本の港のうち、国の内外の海上輸送で重要な役割を持つ「重要港湾」の一つとなった厳原港は、国と県、そして対馬市が協力して整備にあたってきました。平成3年には、現在のターミナルが建設され、対馬の物流の拠点となりました。

ターミナル建設からおよそ30年、その間、韓国釜山との国際航路の開設や、国内向けの貨物の増加など厳原港を取り巻く環境は大きく変化しています。昨年1年間に、厳原港を利用した乗客数は35万人で国内航路の乗客は過去最多となりました。また、貨物は142万トンを取り扱っており、その中には、生産量日本一の長崎県において4分の1の生産量を誇る養殖マグロなど、対馬の海の幸が福岡を経由し、大都市を中心に全国へと出荷されています。



出典：国土地理院撮影の空中写真（平成23年撮影）

平成23年の厳原港 利用者や物が多くなり、手狭になっていった

10年ほど前から、利用客や貨物の増大によって、厳原港に入港する船舶の数は増えました。さらに、国境の島に配備された巡視船も厳原港を利用するため、迅速な出勤を可能とするための整備が求められています。また、陸上でも、駐車場の確保や貨物とのすみ分け、大型車両との通行問題などが発生していました。

利用しやすく、市民が集える場所へ

国と県、そして対馬市は、この状況を変えるべく、厳原港の再整備計画を作り、国内と国際それぞれの航路を利用する人たちのすみ分けや、貨物エリアの整理、利用者や市民が安全に港を利用してもらえるように整備を進めています。

国内ターミナルオープン 以降の整備計画

- 駐車台数の増加に向けた駐車場整備
- 潮位に関係なく乗船できる、ジェットfoil用の浮棧橋の設置
- 巡視船停泊エリアを埋め立て、お祭りなどが開催できる緑地公園の設置



完成イメージ

いよいよ12月10日にオープンする、厳原港国内ターミナル。対馬に住む人たちにとって、港はなくてはならないものであり、それは今も昔も変わりません。しかし、これまで人や物が海を渡るためだけに集う場所だった厳原港は、このターミナルの完成と今後の計画によって大きく変化していきます。暮らしの中で市民の皆さんが気軽に集うことができる港を目指して、これからも整備を続けてまいります。

雞知中学校 2年連続『男女W優勝!』

10月2日、豊玉総合運動公園周回コースで、令和2年度対馬市中学校体育大会「男子第46回・女子第37回駅伝競走大会」が行われ、雞知中学校が2年連続の男女優勝を果たし、女子は8連覇、男子は2連覇の快挙を成し遂げました。男女上位2チームは、11月5日に諫早市で開催された県中総体駅伝競争大会に出場しました。主な結果は以下のとおりです。(敬称略)

男子 優勝 雞知中 1:07'42
 準優勝 巖原中 1:09'37
 3位 西部中 1:10'14
 躍進賞 佐須奈中 短縮記録 4'01

区間賞

1区(4km) 若松 颯 (巖原中) 13'11
 2区(3km) 立花 春樹 (雞知中) 10'02
 3区(3km) 大部 幸太郎 (雞知中) 10'06
 4区(3km) 中田 歩志郎 (雞知中) 10'14
 5区(3km) 大山 寛太 (豊玉中) 10'14
 6区(4km) 島居 優成 (西部中) 12'56



女子 優勝 雞知中 44'25
 準優勝 大船越中 45'17
 3位 豊玉中 46'33
 躍進賞 佐須奈中 短縮記録 1'27

区間賞

1区(3km) 大部 真奈加 (雞知中) 10'56
 2区(2km) 藤原 栞那 (雞知中) 7'09
 3区(2km) 藤 優衣帆 (雞知中) 7'32
 4区(2km) 田中 ひより (雞知中) 7'13
 5区(3km) 黒岩 瑞歩 (大船越中) 10'51



自己ベストを目指して!

10月25日、対馬ジュニア陸上競技選手権大会が、峰総合運動公園陸上競技場で行われました。大会新記録・大会タイ記録は以下のとおりです。(敬称略)

大会新記録

男子C5年生1000m 安田 歩生(豊玉小) 3分08秒7
 惣島 遼(久田小) 3分10秒2
 女子C4年生 800m 須川 みお(仁田小) 2分44秒9

大会タイ記録

女子C4年生 800m 中尾 百花(久田小) 2分46秒4



祝 白寿
 おめでとうございます



大部 トシ子さん(美津島町)大正10年11月1日生まれ

99歳を迎えられた大部さんに市から褒状とお祝い金を贈呈し、長寿をお祝いしました。これからもお元気でお過ごしください。